



第27号
平成30年6月13日
発行
熊本市北区高平
2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭

浄国寺

施餓鬼法要(檀信徒盆供養)

開催案内

浄国寺夏季施餓鬼法要

日時 平成三十年七月三日(火)

午前十一時より

浄国寺檀信徒お盆先祖供養

法話 福岡県久留米市

観興寺 住職

中嶋 道成 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい。

例年通り今年も右記の要領でお盆の供養として、夏季施餓鬼会の法要を修行致します。私自身、幼稚園の園長を兼任している事もあり、お盆の期間

中、檀信徒の皆様方の自宅に伺い、お盆の誦経を行なう事ができません。但し、初盆のお宅だけ伺うようにしています。ご都合がつかう方は、ぜひご参

ますが、この浄国寺通信では毎回触れていません。近年、新たに御縁を戴いた方も多いので、数年ぶりにお盆の由来について書かせて頂きます。

詣戴き、御先祖様方孟蘭盆会の供養を行って頂きたく、御案内申し上げます。当日は、午前十一時より法要開始。法要時間は五十分程度です。その後一時間弱法話を戴きます。今年も、久留米より観興寺ご住職 中嶋道成老師がお話しをされます。法話経験も多い方(昭和二十四年生まれ)で、人生経験に基づいたお話が頂けるかと期待しております。

孟蘭盆(お盆)の由来について

お盆に關しての所依の經典は「仏説孟蘭盆經」とされていいます。孟蘭盆とは古代インド語の「ウランバーナ」の音訳で、意味は「倒懸」逆さ吊りの苦しみ」とされています。先祖供養が、何故「逆さ吊りの苦しみ」という言葉に結びつくのか、不思議に思われる事でしょう。詳細は略しますが、あらすじを申し上げます。お釈迦様の十大弟子の中に目蓮尊者(モツガラナ)という方がおられて、この方は神通第一とされていました。この目蓮尊者の母親は、息子を大変大事にしておられたそう、大事にする余り溺愛に近かったそうです。我が子を優先的に大事にするのは、親としては当たり前の感情です。しかし、目蓮尊者の母親は、少々度が過ぎて、他の子ども達の利が減らしても、我が子の利が増えるような行動を取る事もあったようです。ある日、目蓮尊者が「私を あれほど大事に育ててくれた母親だから極楽浄土で幸せに暮らしているだろう」と、その神通力で見えた所、

我が子だけをする余りに、他の人の利を考えない行動を取っていた悪業の報いで、ウランバーナ逆さ吊りの苦しみを受けていた姿が見えてしまいました。師匠であるお釈迦様に相談したところ「他の人へ供養を行い、その功德を廻らし以てすれば、母親は救われるだろう。特に誰も供養をしてくれない子孫の居ない人にも、他の修行者にお願いで貰いなさい」と言われ、それを実行したところ、母親は救われて涅槃に寂靜したそうです。我々は、つい自分の利益を優先して考えがちです。場合によっては、他の人の利益を考えていたから、自分の利益が減ってしまうので、まず自分の利益を確保しがちです。現代資本主義社会では、それが当然であり、正しい事とさえ考えます。し



かし、道元禪師はそのような考え方は「愚か者」の考えであり、他者の利益のために努力する事こそが自分の利益に繋がると言われている（修証義第四章「愚人思わくは利他を先とせば自らが利省かれるべし、然かには あらざるなり。自他は時にしたがつて無窮なり」）

日本のお盆の習慣は、農業国家であったことに由来する作物の収穫感謝祭的な意味合いや日本の古来の祖先信仰形態と混じり合いながら出来上がっているの、仏説孟蘭盆経とは、若干意味合いが異なっています。しかし、お盆で先祖様を迎えようとする事は、自分と語り人間が今ここに存在し、生きていく事への感謝に繋がります。同時に自分が存在して、ここに生きていく事は、多くの他者のお陰（縁）があつて初めて可能な訳です。自らの利益を追い求め、それが減らないように、又、頂けるものなら他者の利益も頂きたい、それが最小限の努力で叶うなら最高だと考えがちな現代のコスパ社会だからこそ、損得勘定抜きに供養をする気持ちを持つ機会であるお

盆という時間を大切にしたいものです。

大人としての成熟

近頃、よく考えます。明治維新の志士達と団塊の世代の類似点です。共通点として、それまでの体制の否定と前世代への反発、自分達が新たな世界を構築するという気概の問題です。これは、社会の進歩のためには大切な事です。しかし元からあつた文化の継承と新たな文化の創造の狭間には沢山の矛盾点が存在します。それに対して、どう折り合いをつけるかは、各個人が悩みながら落とし所を見つけていかありません。この「悩む」という作業が「大人としての成熟」に繋がるのではないのでしょうか？全部の否定や肯定を無邪気に行う事は楽な事です。維新の志士達や団塊世代は、往々にして、そうしがちです。しかし、そこに自分なりの価値を見いだす事は難しいでしょう。戦後の個人主義を牽引してきた団塊の世代が家族制度の崩壊、核家族化のお中で、自分の親を送り、更に自分自身が送られる立場になりつつある現在、「これは、どうしたら良い

のでしよう？」と自分なりの原案も持たずに右往左往している姿を見かけます。これは万人に共通する回答はない問題です。自分の家族の問題も含め、それぞれの悩んだ上で自分なりの回答を見つけていかないとはいけません。その為のお手伝いは、坊主として一所懸命にやらせていただきます。



初盆のお知らせ

毎年、施餓鬼の案内寺報にも書いていますが、浄国寺ではお盆に回向に回るのは初盆のお宅だけにしています（私の健康上及び幼稚園の仕事の関係の理由）。申し訳ありません。近年、初盆も、ある程度の数になつてきました。特に初盆の場合、各家毎の回向の時間も必要になります。三日間で回るのも、順路を考えるのが大変な状況です。現在順路の日程作成及び調整作業中です。電話等で七月か八月どちらを希望されるか尋ねる場合もあります。七月初めまでには、連絡の葉

書を出す予定にしています。尚、自宅が都合悪く、寺に来て供養をしたい場合は別途にお電話を下さい。、宜しく御願ひします。

坐禅をしてみたい

二月末、熊日「スパイス」の寺活（テラカツ）特集に当山の坐禅会が紹介されました。その後、木曜坐禅会には、毎回十数名の坐禅初心者が来られました。坐禅をやってみたいと考える方が、こんなに多いとは思いませんでした。「只管打坐」只だ、ひたすら坐禅せよ」を宗旨とする曹洞宗僧侶つまり道元禪師の法孫にとつては坐禅をする人が多いのは嬉しい事です。しかし、社会が閉塞状況に陥り、将来に夢が持てなくなつたから、坐禅でもして……。であれば、手放して喜ぶことは出来ません。物質的繁栄は限りがある



ります。しかし坐禅で心の安定を得る事が出来ればと思ひます。今年も、恒例の「いま、心にZEN」を十一月十日（土）に行います。やつと定着してきました。どうぞ足を運んで下さい。

染波は染波

お釈迦様が亡くなる直前に弟子達に説いた教えとされる「遺教経」という経典がある。その後段に仏教として守るべき目標とされる「八大人覺」という八つの教えがあり、少欲、知足、遠離、精進、不念、禪定、智慧、不虛論とされる。物質的欲望が跋扈する現代では少欲、知足が大切だが、心的不安に悩まされる我々には「遠離」即ち群れていく人々から離れ、一人で静かに過ごす事も重要だろう。「衆をねがう者は、衆悩を受く」といつも人の評価や動きが気になって、右往左往していながら、場合によっては自説を曲げても人に媚びる。これが我々の日常だ。しかし、生きているのは自分自身であり、他人がどう生きていようと自分の代わりはしてくれない。たまには、静かな場所でも自分自身を見つめ直して、自分が生きている事に気づくのが大切だろう。

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて
一・(約四十分) 坐禅をして、坐禅に関する著述の解説(約二十分) 会費・会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい